



発行日 2018年 8月20日 51号
 発行 相原まちづくり協議会
 責任者 理事長 土田 恭義
 所在地 町田市相原町 597-56
 電話 042 (774) 2982

相原まちづくり協議会

検索

まちづくり協議会平成30年度の新たな取り組み

相原まちづくり協議会では、本年4月28日(土)丸山公会堂において、平成29年度定期総会を開催。相原地区11町会自治会選出理事22名体制にて引き続き平成30年度をスタートいたしました。本年度は本協議会を構成する理事任期3年の最終年度にあたります。今後とも継続性を保つ活動とするため、理事全員“明るい未来に繋がるまちづくり活動”を意識して取り組んでまいります。引き続きご理解ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

ます。昨年度、町田市都市づくり部地区街づくり課と連携し、「相原駅周辺活性化研究会」を計11回開催しました。その中で、地域の活性化を意識した公共性の高い20課題を抽出しました。この課題に対する11町会・自治会の有識者の方々のご意見も参考にして、平成30年度活動計画に盛り込んだ「今後、本協議会が取り組むべき活動」3点をご紹介します。

① 都道町田街道の都市計画・事業計画の早期実現に向けた取り組み

相原町も JR 相原駅の駅舎の建て替え工事や駅西口の駅前広場の整備も終わり、きらぼし銀行から駅西口へ入る都市計画道路の整備もあわせて終わりました。駅東口については町田街道の相原郵便局前より東口駅前広場に行く進入路の線形及び幅員について確定し、今年度中には町田市において調査測量が行われる予定です。また、相原町も駅周辺につきまし

また、小学校や中学校、相原駅、市民センターに行く唯一の道路でもあります。町田市及び東京都においても幹線道路でもあり地域の利便性や防災上の安全性に重要な役割を担っております。しかしながら町田街道の相原地区の現場の整備状況については昭和30年代に整備され約10mから12mの道路幅しかありません。特に歩道空間については十分な幅員がなく歩行者や自転車の通行に特に支障をきたしています。また、車道についても大型車両が通行するには安全性が十分確保されているとは言えません。特に近年、圏央道の開通や国道16号バイパスの無料化等により車両の交通が大幅に増え大戸踏切を中心に丸山から坂下地区まで慢性的な交通渋滞が発生しており、日常の生活や、通勤についても支障になっています。また、町田街道における重大な交通



交差点予定地

ては少しずつではありますが確実にまちづくりが進んでいることが実感としてわかるようになってきました。

相原地区の町田街道の全長は約7.5kmあります。そのうち小山町との境よりきらぼし銀行までの1.1kmが都市計画決定され消防署前の0.2kmは整備済みです。大戸踏切の立体事業の0.36キロメートルについては事業決定されています。旧国道16号より堺市民センターまでは東京都の第4次事業計画に入っていますが整備時期については未定です。町田街道については相原町の11の町会、自治会の住民が利用する主要道路であり生活道路でもあります。



現在の大戸踏切

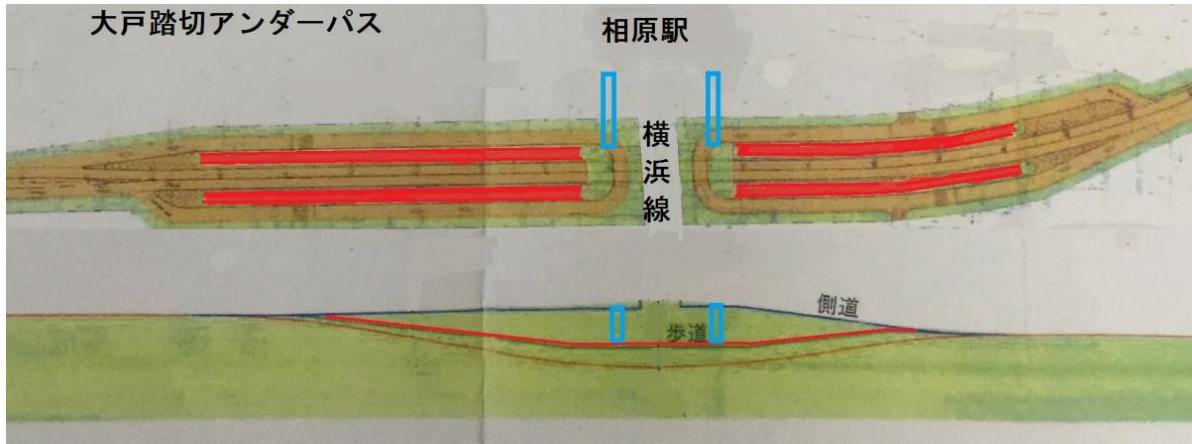
事故が頻繁に起き、児童や高齢者には極めて危険な状況になっています。今後は町田街道の整備について東京都や町田市に次の項目について要望していきます。

相原まちづくり協議会は、11町会 自治会から推薦された理事・監査で運営されています

- (1) 現在都市計画事業決定をし、用地買収が進められている大戸踏切の立体化事業に対し早期の工事着手と整備完了時期の確定を要望する。
- (2) 旧 16 号の坂下交差点から仲町の中央橋までについて、都市計画決定はしているが事業決定をしていない。この区間について早期の事業決定を行い、

- 整備についても推進し、併せて大戸踏切と連続して完成させる。
- (3) はきはらし銀行交差点より八王子市の館団地入口(町田街道終点)までの間の都市計画決定を行い、相原地区の町田街道全線の高規格化の道路としての整備を図るように推進していく。

②相原駅東西を繋ぐ仕組みづくりの検討



断することで、住民の行き来や駅周辺の活力が無くならないよう町田市に提言しています。町田市からもこの提言を重く受け止めるとの説明がありました。詳しくは相原まちづくり

大戸踏切の立体化と周辺の接続道路の形がようやく見えてきました。大戸踏切の立体化(アンダーパス)により、踏切が無くなり歩行者と自転車は、今までのように平面的に線路の反対側に移動するには、きはらし銀行付近から現在の相原駅東口入口の交差点を過ぎた付近まで約 250m (赤線) 町田街道に沿って移動することになり、両側の出口は、車道に囲まれています。また、現在の踏切の代わりになるのが、線路に沿って上り下りする約高低差約 6m (青線) の階段になります。どちらも歩行者に車などからも目が届きにくく、危険な個所になるのではないかと危惧されます。相原まちづくり協議会では立体化により踏切が遮

協議会のホームページ「2009年あいとびあ第33号」をご覧ください。今後も検討を重ねご報告致します。



③相原駅周辺隣接地の活用、

JR 横浜線の相原駅は町田市の西の玄関であり、大地沢に森林浴を求めてくる人たちの最寄り駅になっています。この駅を利用するのは、町田市相原町の住民だけでなく、法政大学、東京造形大学、東京家政学院大学などに通う学生さん、そして相原駅に近い相模原市在住の方々です。相原駅周辺には、町田市が保有する土地があります。一部は自転車置き場、バイク置き場などに利用されていますが、未使用の土地も残っています。一方、都道町田街道の大戸踏切のアンダーパス化により駅東口周辺の市道の拡幅も数年後に計画されています。9年後、橋本駅はリニア新幹線が発着する「神奈川県駅」になっています。相原駅はその橋本駅のすぐ隣です。商店街をいっそう盛り上げながら相原駅に隣接する

土地を有効利用し、活性化させていくことが急務と考えます。



あいほらシャトル丸山団地号について



今年2月1日～3月末まで2か月間、丸山団地と相原駅西口を結ぶ「あいほらシャトル」丸山団地号の第1回目の実証試験が、また4月には丸山団地自治会で全戸対象のアンケート調査が実施されました。これにより問題点と改善の要望が確認されました。

これを踏まえ10月1日から来年3月末までの6か月間に及ぶ第2回実証実験の概要が決定されました。

この内容は、去る7月11日開催された第8回町田市地域公共交通会議で承認されました。

主な改善点は①上り（相原駅に向かう路線）は丸山団地から直接相原駅西口に行き、引き返してきらばし銀行・いなげや経由再度相原駅に向か

う。②下り（丸山団地に向かう路線）はきらばし銀行手前を始発として町田街道に出ていなげやを経由し、相原駅から最短で丸山団地に向かう。

③上りは午前中を中心に6便。下りは午後を中心に7便とし、利用客の利用頻度に合わせた運行にする。

以上の3点が大きな改善点です。これによりかなり利便性は改善されるのではないかと思います。

但し、12月末時点での集計で、1台あたりの平均乗車人数があまりにも少ない場合は、交通システムの見直しが検討される予定です。

八王子みなみの駅から八王子医療センターに無料のシャトルバスが運行しています

八王子医療センター行きのバスが廃止されずいぶんたちますが、不便を感じる方も多いいと思います。今年4月から八王子みなみ野駅から八王子医療センター間のシャトルバスの運行が始まりました。ただし第2第3土曜日と日曜祭日は医療センターには停車していません。このバスは医療法人社団永生会が運営しています。したがって主に「みなみ野病院」と「永生病院」と「八王子みなみ野駅」を巡回していますが、一部が八王子医療センターを経由しています。右の時刻表以外にも「みなみ野病院」には頻繁に往復しています。

八王子みなみ野駅	みなみ野病院	八王子医療センター	永生病院	みなみ野病院	八王子みなみ野駅
7:20	7:25	7:50	8:05		8:20
8:55	9:00	9:20	9:35	9:50	9:55
10:40	10:45	11:05	11:20	11:35	11:40
11:55	12:00	12:20	12:35	12:50	12:55
13:30	13:40	14:00	14:15	14:30	14:35
14:35	14:40	15:00	15:15	15:30	15:35

詳しくは で検索。

200年前のスーパースター 徳本上人

一茶の句に「徳本の 腹を肥やせよ そばの花」という句があります。

今回の主人公はこの徳本上人です。徳本上人は、紀州の生まれで27歳で出家、難行荒行を積みます。粗食に耐え睡眠時間は2・3時間の生活を死ぬまで続けたそうです。34歳で修行にでます。全国を行脚し、その先々で「南無阿弥陀仏」と経を唱えた者に独特の書体の書を授けました。（小林一茶とは北陸で同行しており、その時読まれた句のようです）この書は靈験あらたかと評判になります。行く先々で多くの民衆が押し寄せて徳本上



人の書を求めていました。今風に言えばスーパースターだったのではないのでしょうか？またこの書からその土地土地で石碑が作られます。全国で1000基ぐらい見つかっています。



徳本上人名字石

今からちょうど200年前の1817年11月14日～18日まで八王子の大善寺に滞在しています。

その後今の相模市や厚木市に移動しています。その時相原からも何人かは徳本上人に会いに行ったようです。相原の円林寺（大賀蓮で有名）の門を入ってすぐ左に石碑はあります。また長福寺の東隣に壽福堂というお堂がありますが、その傍にこの石碑が残っています。壽福堂の傍の石碑には徳本の署名と花押が彫られています。このような石碑は「徳本名字

石」と呼ばれたり「六字名号塔」と呼ばれています。彫られた石は自然石が用いられていますが、石老山から持ってきた石ではないかと言われています。ぜひ両寺にお越しの折はこの石碑を見つけてください。まだまだ効力は残っているはずですよ。（写真の書は姫路の大覚寺のホームページより）

平田東助像 2019年2度目の引っ越し

産業組合の母と呼ばれる平田東助の像が来年2度目の引っ越しで生まれ故郷米沢に里帰りします。現在は相原町大戸にある中央協同組合学園内に建立されています。（平田東助については像の説明文



を参照) 幅 10m 奥行 6m 高さ 3mの堂々たる構えです。

この学園は近い将来東京都により買収され、都立大戸緑地の一部として活用されることになっています。なお 松下電器（現パナソニック）の2代目会長松下正治は平田東助の孫にあたります。



写真左上：平田東助像

右上：里帰りを報じた新聞記事

平田東助像の由来

産業組合中央会初代会頭平田東助のこの像は 大正8年（1919）岡山市で開催された第15回全国産業組合大会の決議にもとずき 全国250万の組合員・有志の拠金により 大正10年東京都千代田区九段南1-5-1（九段坂下）に建設されたものである

平田東助は嘉永2年（1849）山形県米沢に生まれた 米沢藩校興譲館 大学南高（現東京大学）に学び 明治4年（1871）ドイツに留学 ハイデルベルグ大学で法学博士を授与された 帰国後明治政府の高官として立法制度の確立に当たり 農商務大臣・内務大臣のちに内大臣に就任 伯爵に叙せらる

特に産業組合法の制定に尽力したばかりでなく 明治38年（1905）大日本産業組合中央会会頭に就任 爾来大正11年（1922）まで17年間 会頭として草創期の産業組合運動を育成指導した 大正14年（1925）77歳で逝去さる

平成3年（1991）厚生省より全国農協中央会にたいして 像が建立されている敷地に戦没者追悼平和祈念館を建設する計画があるとして 平田東助像の撤去移転の要請があった 全国農協中央会は像建設の経緯 産業組合を発祥とする全国の各協同組合および平田家の意向を十分斟酌し 厚生省との交渉を重ね 平成8年（1996）に至って決着し 九段坂下から中央協同組合学園の校内に移転復元することになった 移転復元の工事は 平成8年（1996）4月から行われ8月5日に完工した

像の移転とともに 平田東助の遺言により 嗣子平田栄二氏が昭和4年（1929）像の傍らに建立した楽翁公（白河藩主松平定信・幕府老中）九思歌の碑もこの地に移転復元した

平成9年4月吉日

200年前のスーパースター と 平田東助像 2019年2度目の引っ越し の記事はいきいき町田21に寄稿したものを転載しました。

相原まちづくり協議会は、11町会 自治会から推薦された理事・監査で運営されています